



2009年1月28日

墨田区長
山崎 昇 様

社団法人日本建築家協会 (J I A)
関東甲信越支部 支部長 伊平則夫
同 保存問題委員会 委員長 和田昇三
同 城東地域会 代表 庫川尚益

両国公会堂の保存・活用に関する要望書

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴区におかれましては日頃より建築文化の継承に理解を示され、また本協会の活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、旧安田庭園内の両国公会堂は、安田銀行創立者、初代安田善次郎の遺志により、東京市への寄附の一環として、大正15年6月26日に竣工した建築物です。円形を基本としたユニークなプランで、1階にエントランスロビー、2・3階を790席のホールとし、頂部をドームで覆った鉄筋コンクリート4階建てで、当初、本所公会堂と呼ばれておりました。区立本所公会堂ができたことから昭和16年4月1日に両国公会堂と改名され、同42年4月に貴区に移管され区民の文化向上のために活用が図られてきました。

この両国公会堂の設計者は、東京帝国大学工科大学建築学科において辰野金吾のもとで学び、明治30年に卒業した森山松之助で、稀代の名デザイナーとして数多くの質の高い建築を設計したことで知られ、特に、台湾総督府営繕課在任中には、台湾各地で官庁建築を数多く手がけております。

彼の作品は台湾では大切に使い続けられているものが少なくありませんが、国内においては民間建築が多いため残念ながら現存するものが少なく帰国後設計された両国公会堂は貴重な存在となっています。

そして何よりも、大正から昭和初期にかけての歴史的遺構が希少となった今日、この両国公会堂は貴区にとってもかけがえのない文化的財産と考えられます。

貴区は、平成13年3月の利用休止に先立ち、両国公会堂の改修等を行うため「両国公会堂施設整備現況調査」を行い、改修とともに建て替えの検討をされております。また、周辺に多くのホールをもった施設がつくられたことを考慮して、平成18年12月に貴区の基本計画に於いて両国公会堂を廃止し、民間の文化、観光機能をもつ施設を誘致することとしておられます。さらに平成20年3月に報告書をまとめ、この中で建て替えも見据えた改修による活用を検討されておりますが、さらに国外活用事例にも目を広げ検討されることが望まれるところであり、また、昨今の潮流は、歴史的・文化的な価値を考え、多少の差額を出してでも歴史的建造物を保存・活用する方向へと変わりつつあります。貴区におかれましてもこの状況を十分理解し、地域の歴史を育んできた掛け替えのない両国公会堂を保存・活用することを強く要望致します。

なお、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、及び同保存問題委員会、同城東地域会は、建築の専門家という立場からできる限りの協力をさせて頂くことを申し添えます。

敬具